

拓魂公園 (都立桜ヶ丘公園内) を訪ねる

清水 竹人

1. 拓魂公苑 (多摩市) は慰霊の場なのか

1963年、社団法人全国拓友協会による開設

碑に刻まれた「拓魂」は加藤完治による揮毫

以後、毎年4月第2日曜に「拓魂祭」を開催

社団法人全国拓友協会解散にともない、2001年、東京都に移管

満蒙開拓殉難者之碑建設の由来
この碑は 満蒙の曠野に無惨に散った八万の開拓者と その人々を守りつゝ自らも逝つた関係者多数の御霊が合祀してあります
昭和七年(一九三二年)はじめられた 満洲の開拓事業は 満蒙の天地に 世界に比類なき民族協和の平和村建設と 祖国の防衛という高い日本民族の理想を実現するために 重大国策として 時の政府により行われたものであります
凍土をおこし 黒土を耕し 三十万の開拓農民は 日夜 祖国の運命を想いながら黙々と開拓の鋤を振りました 然し その理想の達せられんとした昭和二十年の夏 思わざる祖国の敗戦により 血と汗の建設は一瞬にして崩れ去り 八万余の拓士と関係者は 満蒙の夏草の中に露と消えていきました
そして そこには未だ一輪の花も供えられ たことはないのです
こゝに同志相図り 水清きこの多摩川の丘に一碑を建て、祖国と民族のために 雄々しく不屈の開拓を闘い抜き そして散つていった亡きこれらの人々の御霊をお祀りすると共に 再びかかる悲しみのおこることなき世界の平和の実現を心からお祈りせんとするものです
昭和三十八年八月
建設委員長 安井 謙

2. 慰霊と顕彰・・・慰霊塔と忠霊塔の違いから考える

慰霊・・・死んだ人や動物の霊魂を慰めること

忠霊・・・忠義のために命を落とした人の魂。英霊。

(小学館『精選版日本国語大辞典』より)

慰霊塔とは、慰霊のための塔。つまり、死んだ人や動物の霊魂を慰めようとする行為のために築かれた塔であり、慰霊する側にとって必要な、慰霊行為があつてこそ意味をなすものといえる。

忠霊塔とは、忠義のために命を落とした人の魂がまつられている塔であり、辞典には「戦死者の魂をまつた塔」とある。では、忠義のために命を落とした人とは誰なのか。

忠霊塔の起源・・・日露戦争の戦没兵(約8万)のうち、郷里に送還できなかった遺骨を遼陽・旅順・安東・奉天・大連に集約し、忠霊塔とした。ということは、対外戦争で死んだ軍人がまつられているということなのか。

3. 靖国神社から考える忠霊と顕彰

- 招魂社・・・明治維新以降に国家のために殉難した死者を奉祀した各地の神社
1879年、東京招魂社が靖国神社となる (他は護国神社)
- 陸軍省と海軍省が管轄 (他の宗教施設は文部省) = 宗教施設ではなく軍事施設
- 家内安全、安産、商売繁盛、交通安全、合格、良縁を祈願する参拝者はいない
- まつられているのは戦死者 (民間の犠牲者は含まれていない)
- 国家のために命を捧げた軍人か?
明治維新後の戦死者 (対外戦争のみではない)
戊辰戦争、西南戦争における明治政府軍の戦死者
つまり天皇のために命を捧げた軍人 (天皇に対する忠義) = 天皇制と一体

思想的背景・・・福澤諭吉 (1835～1901)

主催する『時事新報』に「戦死者の大祭典を挙げるべし」(1895年11月14日)

- 石河幹明 (1859～1943) の起草であると推定
- 内容…戦死した兵士やその家族に対して、国から何の恩賞も無い。今後戦争を行うためには戦死を厭わぬ兵士の調達が不可欠である。兵士やその家族を満足させるために「荣誉ある死」と称える必要がある。そのためには全国戦死者の遺族を招待し、最高司令官である天皇自らが祭主となり、死者の功績を褒め称え、その魂を顕彰する言葉を発することが必要である。



戦死者と遺族に最高の光栄を与えることで、悲しく虚しい家族の戦死を、残された遺族はむしろ喜ばしいものと考えられるようになるだろう。

靖国神社は、追悼施設ではなく顕彰施設と考えるべき存在

<参考文献>

- 高橋哲哉、『国家と犠牲』、NHKブックス、2005年、ISBN 978-4-14-091036-8、920円。
- 高橋哲哉、『靖国問題』、ちくま新書、2005年、ISBN 978-4-480-06232-1、840円。
- 今井昭彦、『近代日本と戦死者祭祀』、東洋書林、2005年、ISBN 978-4-88721-711-9、6,000円。
- 今井昭彦、『対外戦争戦没者の慰霊 敗戦までの展開』、御茶の水書房、2018年、ISBN 978-4-275-02072-7、8,800円。